

## 防災先進都市を目指して

～あの水害を忘れず、教訓として活かしていくために～

### 1. はじめに

常総市は茨城県の南西部に位置し、市の中央を鬼怒川、東側を小貝川が流れ、舟運の町として栄えた歴史もあります。二つの河川に挟まれた平野部は関東でも有数の稲作地帯であり、農業が市の主要産業となっています。近年、つくばエクスプレスの開通や、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）常総ICの開業により、交通の利便性が飛躍的に高まっています。

二つの河川は豊かな恵みをもたらすだけでなく自然災害のリスクも併せ持っています。昭和61年に発生した小貝川の破堤、そして皆様の記憶にも新しいと思いますが、平成27年関東・東北豪雨によって鬼怒川破堤災害が起こったのです。

### 2. 破堤災害で学んだ課題

平成27年9月10日常総市上三坂地先において鬼怒川の堤防が約200mにわたり決壊。この決壊により、常総市の面積のおよそ3分の1にあたる約40km<sup>2</sup>が浸水するという大規模水害となりました。



写真-1 上三坂地先破堤地点の状況(写真出典：関東地方整備局)

被害状況としては死者14人（災害関連死含む）負傷者44人、住家被害として全壊53件、大規模半壊1,591件、半壊3,519件 床上下浸水2,701件というとても大きな被害となりました。

また、この水害では4,258人の方々が逃げ遅れ、ヘリコプターやボートなどにより救助されましたが、被災者へのアンケート調査によると、約9割の方が「自宅までは浸水しなかった」「過去に浸水したことがあるとは聞いていない」と回答しています。避難勧告等の発令や洪水ハザードマップという情報があっても、市民が地域の災害リスクを正しく知り、リスクに応じた避難行動に繋がらなければ意味が無いのです。なお、当市は、昭和61年にも小貝川堤防が決壊した経験がありましたが、その水害では幸いにも市街地まで水が到達しなかったのです。過去の被災経験も危険性の認識の低下や正常性バイアス等となり避難行動の妨げになったと考えられます。

常総市で防災対策を進めていくには、まず、市民一人ひとりが自分の立場で水災害リスクを再認識してもらうことが必要でした。

### 3. 鬼怒川緊急対策プロジェクト

関東東北豪雨災害では、鬼怒川下流部の広範囲に被害が及んだことから、国・茨城県と鬼怒川下流部の7つの市町が主体となってハードとソフトが一体となった治水対策を進めることとなりました。ハード対策では、決壊した堤防の本格的な復旧をはじめ、高さや幅が足りない堤防を大きくし、河道掘削による水位低下も図られます。ソフト対策では、豪雨時の行動を示したタイムラインの作成や河川管理者が地域住民と共に行う共同点検などが実行されています。このような中、常総市では、国土交通省関東地方整備局の支援を受け、全国初の取り組みとして、住民一人ひとりが自分の逃げ方を自ら考える「マイタイムライン」に取り組んでいます。



常総市長 **神 達 岳 志**



写真-2 マイタイムライン講座

#### 4. 常総市の防災ソフト施策

円滑な避難のためには、住民が「自分の避難に必要な情報により判断し行動する」ことが必要で、この「自分の逃げ方」を整理したものがマイタイムラインです。これにより自分が住んでいる所の危険度と避難の重要性を再認識できます。また自治会等を単位としたグループワークでは、和やかな雰囲気の中で真剣な意見交換を行うことにより、水防災意識の向上に加えて「地域の絆の向上」といった成果も出ています。



写真-3 自主防災会での訓練の様子

なお、以前から地域の防災リーダーが中心となり情報伝達訓練や安否確認訓練などの取り組みを行っていた自治会があり、その効果によって「逃

げ遅れ」を大幅に減らしていました。この自主防災組織の取り組みを市内全域に普及させるとともに各地域で自助・共助の取り組みが継続的に実施されるよう、防災の基本的な知識をもった防災士を育成することとしました。常総市では、この防災士資格取得支援の他、様々な取り組みを進めています。

「水害にあった常総市」から災害に強い「防災先進都市の常総市」となり「防災のことであれば常総市に行って聞いてこよう」といわれるようになることが、これから常総市民の私たちにとっても、または、お世話になった全国の皆さんへの恩返しとしても大切なことであると思っています。

#### 5. おわりに

水害から3年が経過し、常総市域内の鬼怒川堤防は、今年の夏を目途に構造物等一部の区間を除いて概ね完成を迎えますが、国と関係市町では防災対策に地域振興を加え、堤防をサイクリングロードとして活用する取り組みを進めており、今年の夏から一部区間で供用開始となります。



写真-4 サイクリングロード

このサイクリングロードは、将来は上流の筑西市まで延びていく予定です。現在常総IC隣地に計画中の「道の駅」と併せて皆様をお迎えできる予定ですのでご期待ください。